



VIAGGIO IN ITALY



大森愛子のイタリア紀行
AIKO OMORI PRESENTI

ソムリエ。ワインスクール講師。
世界15カ国以上を旅したのち、何だか面白そうなイタリアに移住。
現在、定職・定住地なし。強運のみを頼りに移動生活を続ける。
旅の最大の目的は、それぞれの国の人人が何を大切にしているのか
を知ること。

2016 22 1.9

イタリア男子の好きなもの

イタリアの男の子に聞いた、きみの好きなものは何?というアンケート。

第1位はもちろんマンマ。マンマに次ぐ2位は、パパ…ではなく、悲しいかな、Nutella(ヌテッラ)という結果に。

欧米のスーパー・マーケットや食料品店には必ず並んでいるチョコレートスプレッド、ヌテッラ。

香ばしいヘーゼルナッツの風味がついたチョコレートクリームはなんだか以前食べたことがあるような懐かしい味で、食べ始めると瓶の底が見えるまで止まらなくなる危険なペーストです。ヨーロッパではパンに塗るのはもちろん、クレープやパイ、ワッフル、ジェラートなど、ありとあらゆるお菓子の材料としても使用されています。



ヌテッラのボトルは大小さまざまなサイズがあり、イタリアでは大抵どの家庭でも冷蔵庫に常備されているほどの大定番。イタリア人によると誰もが一度は子供のころマンマの目を盗んでこっそりボトルにスプーンを突っ込んで舐めていたという経験があるそうで、ヌテッラなしにイタリア人は育たない!と熱く語る人もいるほどです。

2006年ドイツW杯で優勝したイタリア代表のフランチェスコ・トッティ選手もヌテッラをこよなく愛するイタリア人の一人。怪我で入院した際、看護師から「何か食べたいものはない?」と聞かれ、「ヌテッラが食べたい!」と答えていたというのは有名な話。彼のヌテッラへの想いは相当強いようで、インタビューからのサッカー選手としての体重管理について質問されたときの答えが、「実はこれがかなり辛いんだよね。だって俺はヌテッラが死ぬほど好きなんだ!パンの上に乗ってるやつなんて最高だよ。この誘惑との戦いはきっとスパイクを脱ぐまで続くだろう。」というもの。

ヌテッラはイタリア男にとってかくも愛しく悩ましい存在なのです。



ヌテッラ味のジェラートも人気



クレープの中身にももちろんヌテッラ

イタリアの甘い朝ごはん

これでもかというほどヌテッラをたっぷり塗りつけたパンはイタリアの朝食の定番。

ヨーロッパのホテルでは朝食用のジャムの横にヌテッラを見かけることも多く、発売から40周年記念の際「世界で最も愛されている朝ご飯」というギネス記録に選ばれたこともあります。

朝からハムやチーズなど塩気のあるものを食べる習慣はイタリアではなく、ジャムやヌテッラをビスケットやラスクといった小さなパンに付け、そのパンをカフェラッテやカプチーノにビシャビシャ浸しながら食べる、、、お行儀は悪いですが、イタリア家庭の朝の光景です。

朝食は手っ取り早く外で済ますという人も多く、朝早い時間のBARで見かけるのは慣れた様子で甘いパンとエスプレッソをとて一日を始めるイタリア人の姿。

彼らに混じって注文を済ますと、愛想のいいウェイターがカウンター越しに話しかけてくれました。

日本では朝どんなものを食べるの？

焼き魚、卵焼き、お米にお味噌汁、お漬物が日本式の朝ごはんで、ほとんど塩辛いものなのよ、とお兄さんによく説明すると、信じられないという表情の後ボソッと一言。

…気持ち悪いな。

やまとなでしこの皆さん。

イタリア男性と結婚するとわがままでマザコンで大変だともっぱらの噂ですが、朝ごはんの用意だけはとにかくラクそうですよ。何せ棚からビスケットとヌテッラを取り出して並べれば、彼らは幸せな笑顔を見せてくれるのですから。



甘いパンとカプチーノ。
イタリアの典型的な朝食です。



BARでとる朝食の定番はカッフェ（エスプレッソ）と
コルネット（クロワッサン）



こういった甘いお菓子を常備しておいて朝食に食べます。



ビスケットやクッキーも朝食の定番。日本人からすると
おやつにしか見えないイタリアの朝ごはんです。